



# 双塔

カトリック新潟教会

2019年12月  
No. 379

## 幼子への祈り

協力司祭 鎌田耕一郎

小さなイエスさま

あなたがお生まれになった  
暗がりの洞窟のうまやは  
寒かったでしょうか

吹きこむ風と土よりのぼる冷気は  
小さなおからだに  
しみたでしょうか

動物たちの粗末な馬槽と  
敷かれた僅かのワラは  
固かったでしょうか

けれどもマリアさまが  
あなたをお包みになった布は  
柔らかで暖かだったでしょうか

天使に教えられた羊飼いたちは  
あなたのために真っ白な羊の毛を  
おささげしたでしょうか

地上にお生まれになった最初の夜は  
よくお眠りになることが  
できたでしょうか

そしてマリアさまは  
やさしい子守唄を  
うたってくれたでしょうか

それから夜半に  
目をさまして  
お泣きになったでしょうか

静かな夜にあなたの声が響き  
私たちがそうしたように  
マリアさまからお乳を  
頂いたでしょうか

そして暗い洞窟のなかを  
天使たちの光が  
照らしていたでしょうか

あなたが、光であることを示すために……。

クリスマスの夜、素朴な一つの情景が展開されます。飼い葉おけの中に眠るみどりごを見守るその母とヨセフ、聖なる沈黙の静けさが支配する情景です。

私はもう巻頭言は書けないかもしれないから、先にクリスマスの時の原稿を渡します。と、ずいぶん早い頃にこの原稿を受け取っていました。待降節を待ちわび、この文章をやっと掲載できると思っていた矢先、11月5日、鎌田神父様が天国へ召されました。

この詩で鎌田神父様の巻頭言は最後となります。